

JCAAW

Japan Commerce Association of Washington, D.C., Inc.
ワシントン日本商工会会報

5月号

2024年 No. 562

目次

- 研修会報告「アメリカ連邦議会の現状と課題
“The US Congress: Complex and dynamic nature, and ongoing challenges”」……………2
- 第12期グローバル・クラスメートプログラム実施のご報告……………3
- 広告募集のご案内……………6
- ワシントン月報(第201回)「30年闘争記 ～ローファームの分裂～ ～我が人生～」
米国特許弁護士 服部 健一……………7
- 今月の書評「ザ・シスターフッド」
ポトマック・アソシエーツ 池原 麻里子……………14
- English Rescue by Jennifer
「Language and Culture」……………16
- 編集後記……………19

今月の特集

「研修会報告『アメリカ連邦議会の現状と課題
“The US Congress: Complex and dynamic nature, and ongoing challenges”』」

3月に開催されました研修会は、在米日本大使館
議会班の石垣公使を講師にお招きしました。ご報告
いたします。P.2



「第12期グローバル・クラスメートプログラム実施のご報告」

授業の一環として日米の高校生がペアを組み交
流し、文化や言葉を学び合うオンライン学習プロ
グラム「グローバル・クラスメート」。Kizuna Across
Cultures代表のスメサースト様にご寄稿いただき
ました。P.3～



JCAAW Copyright © 2024 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

研修会報告

「アメリカ連邦議会の現状と課題

“The US Congress: Complex and dynamic nature, and ongoing challenges”

講演者: 在米日本国大使館議会班 石垣 友明公使

研修担当理事: 須内 康史 / 上坪 雄之

2024年3月14日(木)、ワシントン日本商工会は在米日本国大使館議会班の石垣友明公使をお招きし、「アメリカ連邦議会の現状と課題」に関するオンラインと対面のハイブリッド形式の研修会を開催しました。

今秋に行われる米大統領選に向けて米国政治に大きな関心が集まる中、今回の研修は国際社会や日米関係等にも大きな影響を与える「アメリカ連邦議会の現状と課題」をテーマにしたタイムリーな内容であったことから参加者は過去最高の110名を記録しました。講演者の石垣公使は米連邦議会に数多くの人脈をお持ちで昨年には有斐閣から「アメリカ連邦議会—機能・課題・展望」を出版されるなど、連邦議会の全てを熟知する第一人者の方です。講演では米連邦議会と日本との関係、議会の概要、議会を理解するためのポイントや現状と課題について、非常に的確かつ分かりやすい解説を頂きました。



講演後に行われた質疑応答では「勢力僅差の議会は今後どうなるのか?」、「第三政党の可能性は?」、「超党派の合意は今後可能なのか?」等の複数の鋭い質問が寄せられました。石垣公使からはご自身の見解を含め、一つ一つ丁寧に説明を頂き、終了後には参加者の方々から「米国政治に注目が集まる中、米連邦議会への理解がより一層深まる良い機会となった」とのポジティブなコメントを複数頂戴しました。

ご多忙の中、このような貴重な機会を提供頂いた石垣公使には改めて厚く御礼を申し上げます。商工会では今後も会員の皆様にとって有益な機会となる研修会を順次企画・運営して参りたいと思っておりますので、引き続き宜しくお願い申し上げます。

以上

第12期グローバル・クラスメートプログラム実施のご報告

寄稿: Kizuna Across Cultures

代表 スメサースト 文子 / プログラムマネージャー バトニック 孝枝

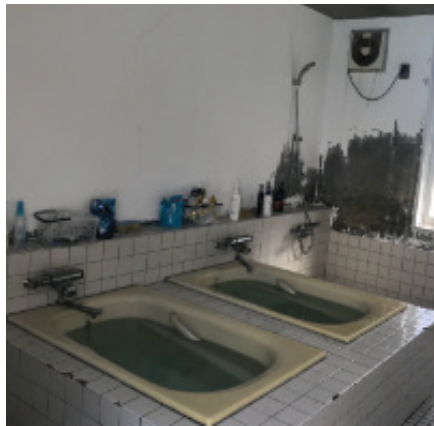
2023年9月から2024年2月に渡り、オンライン交流プログラム「Global Classmates (グローバル・クラスメート)」を実施しました。本プログラムを通じ、米国の高校の日本語クラスと日本の高校の英語クラスが交流ペアを組み、生徒達は授業の一環として、半年の間、多様なトピックについて、メッセージを交換し、対話を深めました。バージニア州とメリーランド州から参加した高校と、それぞれの交流相手校は以下のとおりです。

参加校	交流相手校
Albert Einstein High School (MD)	福井県立若狭高等学校
Eleanor Roosevelt High School (MD)	新潟県立新潟高等学校
Falls Church High School (VA)	京都府立洛北高等学校
Langley High School (VA)	香川県立高松工芸高等学校
Maggie L. Walker Governor's School for Government and International Studies (VA)	長崎県立奈留高等学校
Ocean Lakes High School (VA)	大阪府立渋谷高等学校

印象的な交流の場面をご紹介します。

Ocean Lakes High Schoolの生徒達は、大阪府立渋谷高等学校の生徒達と、好きな言葉や、モットーを紹介し合いました。ある生徒が「人は協力を通じて強くなる」という言葉を紹介すると、両方の学校の生徒から賛同する声が上がりました。また「月に足跡があるのに、空は限界だと言わないで」という言葉を英語で紹介した生徒に対し、「その言葉に鳥肌が立った！」「チャレンジするって最高！」という反応が寄せられました。プログラムに参加した生徒達に「文化に違いはあっても、人として大事に思うことは似ているんだなと実感した」といった感想を頂くことがよくあります。アメリカと日本の生徒達が、言語や文化の壁を越えて、互いの価値観に共感し合えたことは、印象に残る体験となったのではないのでしょうか。

Falls Church High Schoolと京都府立洛北高等学校は、双方の希望により、昨年に引き続き、今年も再度ペアを組みました。今年はさらに一步踏み込んだ学校案内をしようと、自分の学校や教室にある面白いものを紹介することにしました。Falls Church High Schoolの生徒からはカラフルに飾ったロッカーや、天文学を履修する生徒のための本格的なプラネタリウムの紹介があり、洛北高校の生徒からは、プールにお風呂が備え付けてあることや、サイエンスに力を入れている学校ならではの生物実験室などが紹介されました。どちらの生徒も、普段の学校生活の一コマを写真や文章でうまく紹介し、学校の自慢大会のように盛り上がりました。



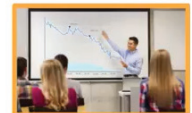
Albert Einstein High Schoolと福井県立若狭高等学校の交流ペアは、食糧問題について取り組みました。グループごとにネット検索では得にくい、自分の州や県、もしくは市や町など、学校などの食にまつわる課題や取り組みについてリサーチを行いました。次に、リサーチした内容をまとめ、自分たちの分析やリフレクションを加えて相手校の生徒たちにシェアしました。

Albert Einstein High Schoolの生徒達は、メリーランド州の「食糧難民問題」や、自分たちの住む地域で起きている「フードデザート」「フードロス」「食品廃棄」などについてリサーチしました。パワーポイントやスクリーンキャストを使って、日本語で、学校のフードパントリーやフードバンクについて紹介し、解決策をまとめ、発表しました。



資金を増やして

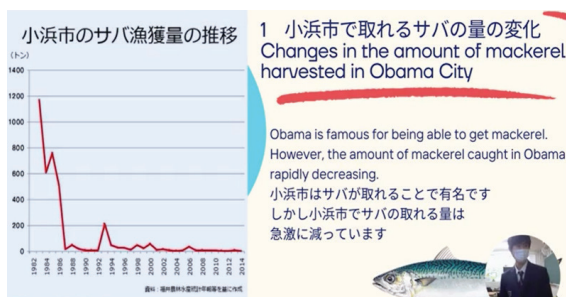
私たちの
解決策



多くの人に食料の問題の役割を教える



みんなは自分で野菜を作って



また、若狭高校の生徒からは地元の名産であるサバについて、漁獲量が激減していることや、気候変動が原因で養殖も打撃を受けていることなどについて発表がありました。Albert Einstein High School の生徒達は、メリーランド州の名産であるカニの量も気候変動により減少していることを挙げ、関連付けて考察しました。

生徒達より、このプロジェクトを通して、「日米において似たような課題がある一方で、異なる解決策があることを学び、情報交換や意見交換の大切さを学んだ」や「実際に自分たち高校生にでもできるアクションがあることを実感した」との感想が寄せられました。

修了時アンケートにおいては、「多様な視点や経験に対する気づきが高まった」に97%、「相手の文化に適した形で自分の考えを表現できるようになった」に92%、「自分の思い込みに気づき、客観的に考察できるようになった」に92%の生徒が賛同しました。語学力のみならず、異文化間能力 (intercultural competence) を高めたことが確認され、質の高いオンライン国際協働学習を実現できたと言えると思います。

本プログラムに参加頂いた先生方のご尽力と、ワシントン日本商工会および財団のご支援に、深く感謝申し上げます。



Maggie L. Walker Governor's School for Government and International Studies の生徒達が長崎県立奈留高校からお土産をもらった時の様子



Falls Church High Schoolの修了時クラス写真

米国日本通運株式会社は2022年1月より、社名を**NXアメリカ株式会社**へ変更致しました。



帰国の際の引越はNXアメリカにお任せください

お問い合わせ、お申込みはNXアメリカ ワシントン営業所まで

TEL: (703)-661-8326 (日本語ダイヤル)
URL: <http://www.nittsu.com/hikkoshi>



PASONA

Human
Resource
Solutions

「人事」から始まる
「経営戦略」

詳しくはこちらから

広告募集のご案内

JCAW会報に広告を掲載しませんか？



広告のイメージ図

JCAWでは、広告掲載の申し込みを承っております。JCAWは500名以上の会員からなり、ワシントン地域の日本人社会に広く浸透しています。

是非、貴社の広告や宣伝にJCAW会報をご利用下さい。

会報の広告にリンクを設定する事により、クリック1回で、貴社のウェブサイトやEメールアドレスにアクセスすることができます。年間契約でさらにお得になります。

JCAWウェブサイトのトップページには、バナー掲載など、各種オプションを取り揃えております。

詳しくは、JCAW事務局までお問い合わせ下さい。



ウェブサイトのバナーのイメージ図

料金体系（2024年1月からのレート）

広告掲載先	サイズ	商工会会員		非会員	
		月料金	年料金	月料金	年料金
会報※1	1/4ページ	\$55	\$495	\$80	\$720
	1/2ページ	\$110	\$990	\$135	\$1,220
	1ページ	\$220	\$1,980	\$265	\$2,385
ウェブサイト※2	200px X 33px	なし	\$330	なし	\$825

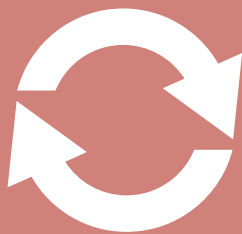
※1 会報広告 原稿制作費は当広告掲載料金に含まれません。原稿は広告主様にて手配願います。1年（1月～12月）契約で1回割り引きとなります。（会報は年10回発行）

※2 ウェブサイトのバナーは年間契約（1月～12月）のみとさせていただきます。（バナー作成を依頼する場合は、別途\$50～対応いたします。お気軽にご相談ください。）

お問い合わせ先

Japan Commerce Association of Washington, D.C., Inc.
 1819 L Street N.W., Suite 410, Washington, D.C. 20036
 TEL: 202-463-3947 FAX: 202-463-3948
 Email: office@jcaaw.org URL: www.jcaaw.org

登録情報の ご確認、更新をお忘れなく



法人会員、個人会員ともにご登録情報（会員名、電話番号、メールアドレスなど）にご変更がある場合は、お気軽に事務局までメール（office@jcaw.org）にてご連絡ください。

会報やその他の情報がタイムリーにお手元に届きますよう、登録情報の更新にご協力ください！



Japan Commerce Association of Washington, D.C., Inc.



YAMATO
TRANSPORT
U.S.A.

INTERNATIONAL
MOVING SERVICE



お荷物の多い方! 時間のない方!
面倒なお引越は全てまかせて
ら〜くらく!



箱に入らない家具や
自転車なども送りたい、だけど安く
済ませたい! そんな方へ



定形の箱に入るお荷物だけ
ご自身で梱包をして節約!
すぐに必要ではない
お荷物は船便で割安に



定形の箱に入るお荷物だけ
ご自身で梱包をされる方
必要な荷物を
最短の所要日数でお届け



各サービスの詳細はウェブサイトにてご覧いただけます!

www.yamatoamerica.com/cs/



フリーダイヤル
5 4 5 6 5 8
1-866-5.KIKOKU

日本以外の世界中へのお引越・米国内のお引越も!

米国ヤマト運輸 ワシントンDC支店
22930 Quicksilver Drive, Unit 115
Dulles VA, 20166
Phone: (703) 661-3501
Email: wasoperat@yamatoamerica.com

今月の書評

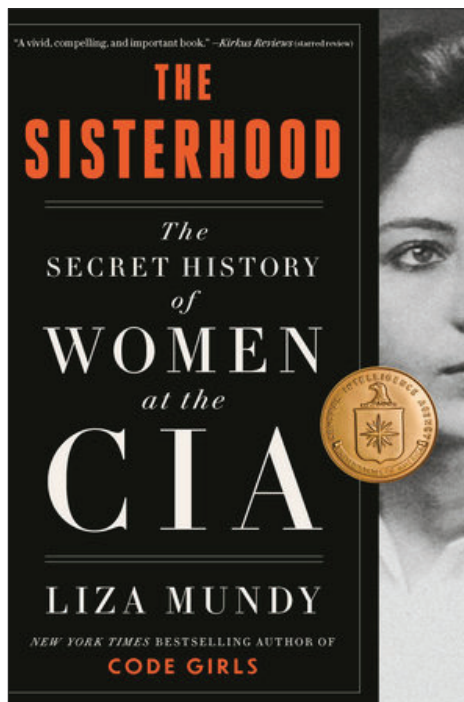
映画みたいなことは実際にあったこと

女性活躍時代を牽引してきた女性スパイ

「ザ・シスターフッド」

リザ・マンディー

ポトマック・アソシエーツ 池原 麻里子



「ザ・シスターフッド」
リザ・マンディー(クラウン)

本書の副題は「CIAの女性の秘密の歴史」で、100名以上のCIA関係者とのヒアリング、機密解除文書、回想録、学術論文などに基づいている。著者の前作「コード・ガールズ」の続編とも言える。

CIA創設から冷戦、9/11同時多発テロ事件、ウサーマ・ビン・ラーディンの暗殺など70年のCIAの活動の女性の活躍について描いている。2018-21年にジーナ・ハスペルが初の女性長官に就任するまで、女性にとって地味な長い道のりだった。

前半では第二次大戦のCIA前身OSS、そして戦後のCIA設立から冷戦、9/11同時多発テロに至るまで、秘密工作で女性が直面したハードルを描いている。CIA設立直後から多くのエリート大卒の女性がCIAに入省した。外国語が流暢で、外交関係の知識が豊富でも、タイプやファイリングといった秘書的職務ばかり担当させられることも多かった。組織はとてもマッチョな職場だったのだ。

そして、皮肉なことに、一部の女性はCIA職員と結婚することによって、妻として外地で疑われることなく貴重な情報収集活動を行った。この活動は無償だった。

一部の女性は、不当な扱いに不満を覚え、CIAを提訴し、勝訴した。女性たちは徐々に職員として海外任務に就くことにもなる。しかし、男性優位の職場で、嫌がらせを受け、邪魔者扱いされることも多かった。男性職員の汚職を報告しても、彼らはお互いを庇いあっていたために無視された。

後半では9/11から今日に至るまで、優れた女性CIA職員の活動を紹介している。

例えば、CIAのロシア人協力者たちが次々と姿を消したが、オールドリッチ・エイムズというCIA職員がロシアに買収され、情報を提供していたことが原因だったのを突き止めたのは女性たちだった。

またナイジェリアでボコハラムに誘拐された女学生たちの居場所を突き止めたのも女性職員だった。

冷戦中、連邦政府は民間より女性を雇用した。しかし、CIAにおいては、女性は現場より、分析を担当させられた。彼女たちは9/11後に特に重要な役割を果たした。

そもそも女性アナリストたちは、根無し草となった外国人戦士たちがソ連侵攻後のアフガニスタンに集まっていたことに注目した。彼らはアルカイダとなる。ビン・ラーディンやアルカイダに対する注意喚起は、長年の金融取引、過激なイスラム原理主義者たちの動きといった断片的な情報の分析に基づくものだった。

1993年時点で、すでにアルカイダは米国の戦略上重要な建物に航空機を衝突させることを企てていたことを警告していたのだ。だが、男性の上司たちはそれに耳を傾けなかった。

9/11後、それまでイスラム原理主義者の動きを追跡してきた女性たちを追放しようとする動きもあったが、彼女たちは任務を続け、ついには屋外に干された洗濯物によって、ビン・ラーディンのパキスタンの居場所を確定するに至る。これで、彼の暗殺が実行された。

さて、世界の回教徒は16億人で、アルカイダのメンバーになったのは0%以下。これに対し、2020年にQアノン陰謀説などで、米国民の過激化が進み、2021年1月6日には議会を襲撃。

外国テロリストではなく、国内の過激派が民主主義を崩壊させる危険性が高いことを或るベテラン女性CIA職員は懸念しているという。

(New Leader 2024年3月号より転載)

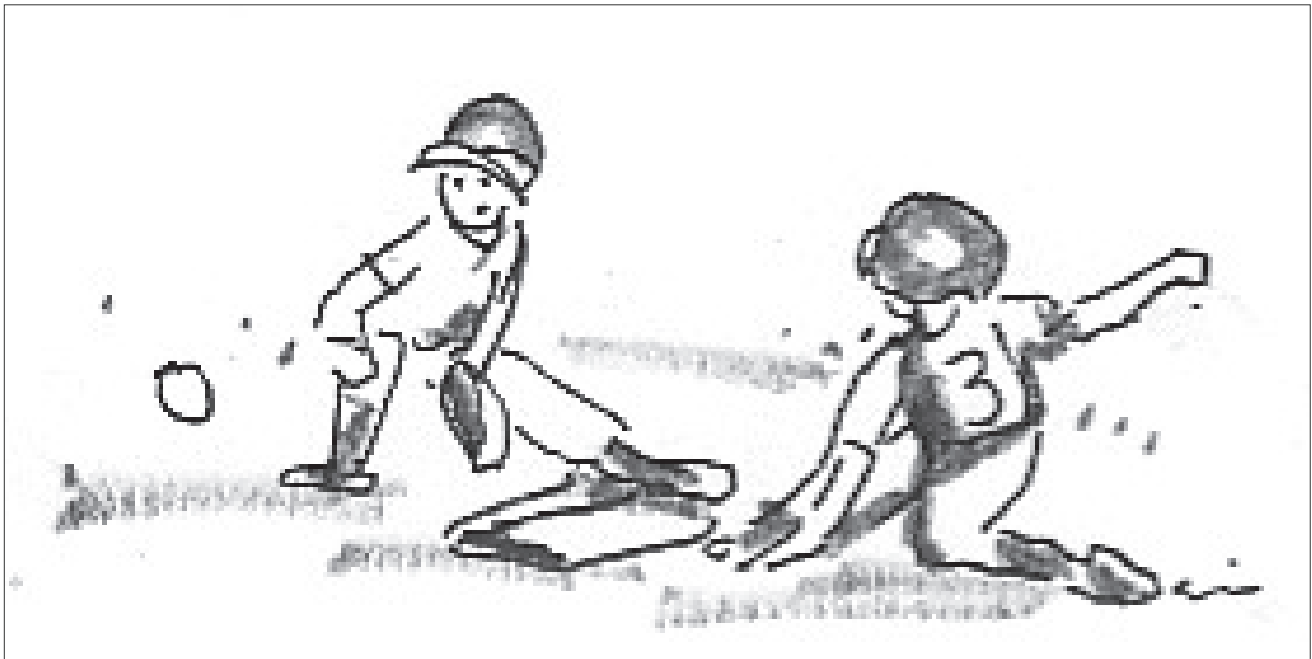


Illustration by Emi Kikuchi

English Rescue by Jennifer : 「Language and Culture」

ジェニファー・スワンソン

Hot Topics – American sports: Basketball

With the excitement of Super Bowl LVIII, and the thrilling news that Shohei Ohtani signed with my hometown Dodgers, I decided to focus on popular sports in 2024. But first a quick note: in case you are new to this JCAW column, in the past few years, I have spotlighted famous American speeches, poems, podcasts and others. Back issues can be found on the JCAW website.

Sports play a crucial role in American culture. The image of basketball in the United States is one of high energy, athleticism, and cultural significance. It is seen as a sport that transcends barriers, appealing to diverse audiences across various demographics. The NBA, with its fast-paced games and superstar athletes, epitomizes excellence and entertainment, making it a cornerstone of American sports culture. Basketball is also deeply rooted in urban culture, often associated with streetball and community courts where many players hone their skills. Beyond the professional realm, it is viewed as a pathway to success and a source of inspiration for young people, fostering values like teamwork, discipline, and perseverance.

History: Basketball was invented in 1891 by Dr. James Naismith, a Canadian physical education instructor, who developed the game as an indoor activity to keep his students fit during the winter. The first game was played with a soccer ball and two peach baskets as goals at the International YMCA Training School in Springfield, Massachusetts. The sport quickly gained popularity, leading to the formation of various leagues and the establishment of college basketball programs. In 1946, the Basketball Association of America (BAA) was founded, which later merged with the National Basketball League (NBL) in 1949 to form the National Basketball Association (NBA), the premier professional basketball league in the world. Over the decades, basketball has grown into a major cultural phenomenon in the United States, producing iconic players like Michael Jordan, Magic Johnson, and LeBron James, and becoming a staple of American sports and entertainment.

Rules: Basketball is played between two teams of five players each on a rectangular court with a hoop at each end. The objective is to score points by shooting the ball through the opponent's hoop while preventing them from doing the same. Players advance the ball by dribbling or passing, and a standard game consists of four quarters, typically lasting 12 minutes each in the NBA. Points are scored in various ways: a field goal is worth two points, or three if taken from beyond the three-point line, and free throws are worth one point each. Key rules include restrictions on physical contact (fouls), time limits for holding the ball (shot clock), and violations like traveling and double dribbling, ensuring a fair and continuous flow of play.

Key differences between basketball played in the United States and other countries often lie in the rules, style of play, and organizational structure. International basketball, governed by FIBA (Fédération Internationale de Basketball), features a shorter three-point line and a different key shape compared to the NBA. The game clock and shot clock differ as well; FIBA games consist of four 10-minute quarters, and the shot clock is 24 seconds, mirroring the NBA but differing from other leagues. Stylistically, international play tends to emphasize team-oriented strategies, ball movement, and outside shooting, while the NBA is known for its fast-paced, high-flying athleticism and individual star power. Additionally, the level of physicality and officiating standards can vary, with international games sometimes being more physical and tightly officiated. The structure of leagues also differs, with the NBA being a singular dominant league in the U.S., while many countries have multiple competitive leagues and clubs.

Why is basketball so popular? Basketball's popularity in the United States can be attributed to several factors. Firstly, its fast-paced, high-scoring nature makes it an exciting and dynamic sport to watch and play. The accessibility of the game, requiring minimal equipment and playable in various settings, from professional arenas to neighborhood courts, has made it widely popular. The NBA, with its marketing prowess, global reach, and promotion of star athletes, has significantly contributed to the sport's appeal, creating household names like Michael Jordan, LeBron James, and Kobe Bryant. Additionally, basketball has deep roots in American culture, particularly in urban areas, where it serves as both a recreational activity and a pathway to college scholarships and professional careers. The game's integration into the school system, with strong high school and college basketball traditions, further solidifies its presence in American society.

The 1992 Dream Team played a pivotal role in exporting basketball globally and significantly boosting the sport's popularity around the world. Composed of NBA superstars like Michael Jordan, Magic Johnson, Larry Bird, and Charles Barkley, the Dream Team dominated the 1992 Barcelona Olympics, showcasing a level of skill and athleticism that captivated international audiences. Their presence and performance not only demonstrated the excellence of American basketball but also inspired countless fans and aspiring players worldwide.



Photo: <https://www.sportingnews.com/us/nba/news/dream-team-roster-history-usa-1992-olympics/4o78v2slilky1inrskk8h6wkb>

The Dream Team's games were widely broadcast and viewed globally, which helped the NBA gain a substantial international following. This exposure introduced many to the high-flying, fast-paced style of NBA basketball, leading to increased interest in the league and the sport.

Moreover, the players themselves became global ambassadors for the game, participating in clinics, promotional events, and charity work, further spreading basketball's appeal.

The success and influence of the Dream Team also paved the way for more international players to join the NBA, thereby diversifying and enriching the league. Overall, the Dream Team's impact was profound, making basketball a truly global sport and establishing the NBA as the premier basketball league worldwide.

- <https://www.britannica.com/sports/history-of-basketball>
- <https://www.sportingnews.com/us/nba/news/dream-team-international-players-nba-30-years/wvtkr28hh1gjhxmfotl9lqn>
- <https://www.sportingnews.com/us/nba/news/dream-team-roster-history-usa-1992-olympics/4o78v2slilky1inrskk8h6wkb>



～Jennifer Swanson プロフィール～

日本にて7年在住中に、高校英語教師の経歴を持ち、日本企業でも働いた経験を生かし、現在は米国大学講師、日米協会講師、在米日本人に英語レッスンの他、米国人に日本語も教える。日米でのさまざまな経験を基に、“頻出テーマで はじめてのTOEFLテスト 完全攻略”(高橋書店: Jennifer Swanson/四軒家 忍 (著))を出版、多方面から楽しい英語レッスンを展開しています。

jenniferswanson.org

5月号 編集後記

日没時刻が午後8時過ぎとなり、1日の長さが感じられる季節となりました。米国ではメモリアルデーが夏の始まりの日とされ、ビーチ開き、バーベキュー、ピクニックといった活動が多くなります。夏の訪れが待ち遠しいですね。

また、今年は13年セミと17年セミという二つの素数セミ集団の周期が一緒になり、セミが大発生するとされています。周期が一緒になるのは江戸時代以来、221年ぶりとのこと。残念ながら(?)中西部や南東部での発生でDC地区では経験できないようですが、200年を超える歴史的な自然状況には注目ですね。

もう一つの注目といえば、11月の大統領選挙に向けて今後本格化する選挙キャンペーンだと思います。日本では自国の政局も気になるところですが、「もしトラ」「ほぼトラ」などと頻繁に言われるように、大統領選挙の行方や次期政権の政策に高い関心が集まっています。会員の皆さんも情報収集にご多忙であると思います。新政権の政策では「関税」「中国」と言ったキーワードが日本の産業界にとっては関心・懸念事項でしょうか。不安も多いですが、選挙戦が楽しみでもありますね。

岡崎・岡本



会報に関するお問い合わせにつきましては、[JCAW事務局](#)までご連絡ください。
